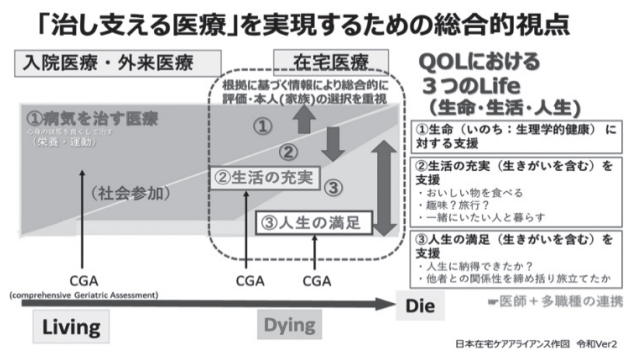


安心ある在宅療養を目指した我が国独自の多職種連携のためのQOL(Quality of Life)指標開発の研究

飯島 勝矢 ●東京大学 高齢社会総合研究機構 機構長 / 未来ビジョン研究センター 教授



地域実装を経て日本全体の共通認識へも促したい。

2. 取り組みの方法

在宅療養に関わる多くの専門職(医療・介護の両方)および在宅療養者(本人とご家族)も対象とし、QOLを具体的にどのように捉えているか自記式アンケート、インタビューから項目を精選し質的研究を進める。さらに最終的にデルファイ調査法により、インタビューに関わった全専門職が再び参集する形で合議するプロセス(複数の段階を経る)を取り、評価尺度を作成する方法を取る。これにより安心のある在宅ケア実現における重要なアウトカム指標に対する包括的なQOLを定量的に評価することを可能とし、さらに多職種間の連携において3つのLifeを意識したQOLについての共有理解が可能となることが期待される。

3. 期待される成果

本研究を経て、QOLのLifeの意味を「①生命(いのち)、②生活(暮らし)、③人生(生きがい)」という3つの意味を基盤に置き、日本に暮らす高齢者の価値観に合った包括的な日本版QOL評価指標を考案することができたならば、全専門職種に近い関係者たちが在宅療養者のQOLを多面的・包括的に評価することができるようになる。さらに多職種連携において、特に患者ご自身およびご家族のご意向を十分に尊重した方向性を見出し、QOL向上を目指した質の高い在宅医療・在宅ケアの実現に結びつく。

1. 背景と目的

超高齢社会に向けて健康長寿を目指すと同時に、「住み続けてきた地域や自宅で安心していつまでも住み続けたい」という目標を目指すべく、地域包括ケアシステムの中の在宅医療介護連携がさらに重要となる。より良い在宅ケアを継続していくために、患者およびそのご家族も含めた介護者の生活の質(QOL)を重視することは言うまでもない。しかし、患者中心(Patient-centered)と言われながらも、各専門職が多職種連携を深めた形で実践していく各種の訪問サービスにおいて、さらに本人の意向を重視・尊重した形で、多職種間の考え方を一致させながら連携を強化すべきである。

そこで、申請者が所属する日本在宅ケアアライアンス(22団体加盟)では、日本に暮らす高齢者におけるQOLのLifeの意味を「①生命(生理的健康)」「②生活(日々の暮らし)」「③人生(生きがい)」という3つの意味で解釈し、在宅ケアのさらなる底上げを図りたい。本研究の目的は、上記3つのLifeの意味を包含した形での包括的に評価できる日本版QOL指標(尺度)の開発を行い、